

アメリカフウの紅葉は広大移転とともに

生物生産学部の玄関前から工学部へぬけるメインストリートの両側には、アメリカフウの高木が3列に並んでいる。秋になると、これが紅葉して東広島一の美しさを誇る。市民が遠慮なく構内に入れる11月上旬の大学祭までは、なんとか美しさを保つ。



アメリカフウはモミジバフウとも言う。原産地の北アメリカ東部では、高さ40から50mにも達する大高木。その名前から察せられるように、たいていの人がモミジ・カエデの仲間と勘違いする。だいぶ前、NHKに「森林ウォッチング」という番組があって、フウとカエデの見分け方をやっていた。3つぐらいあったポイントのうち、しっかり覚えているのは、その果実である。フウが「いがぐり」であるのに対し、カエデは「竹とんぼ」のよう。

広島大学の統合移転は、「大学紛争」に端を発する。広島市に医・歯・薬だけを残し、それ以外は東広島市に統合した。当時、広島大学が広島市を出ていくことについて、市民の反対はなかった。だが、バブルがはじけ、市街地ですら高齢化が進むにつれ、大学を引き留めなかった後悔があとに残った。

広島市から最初に移転したのは、工学部。昭和57年（1982）のことだった。「広島大学の50年」（1999年発行）に載る、当時の航空写真を見ると、工学部の建物の周りには更地が広がる。わずかに、整地されなかった山林が点々と緑の染みを残す。

昭和63年（1988）、生物生産学部が2番手として福山市から移転した。そのとき、アメリカフウの並木は、すでに体をなしていた。それから20年。大学構内を通るたびに、アメリカフウの成長を見上げ、過ぎ去った時間を知る。



東広島市内では、ここ以外にもアメリカフウの紅葉が美しい並木がある。一方、不思議なことにうまく紅葉しない場所もある。きれいと思った並木道は次の2ヶ所。

[その1](#)/[その2](#)

